

2017 年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価 Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

（進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。）

2016 年度大学評価（認証評価）結果指摘事項 なし
2016 年度外部評価委員会指摘事項 なし
前年度からの課題（2016 年度点検・評価シート IV 次年度への課題 より転記） なし

Ⅰ 評価項目・担当部局

対象部局	文学研究科
評価基準 1	理念・目的
点検・評価項目(1)	1-1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
評価の視点	理念・目的の明確化
	設置の主旨や歴史からみた理念・目的の適切性
	個性化・独自性、国際化への対応
点検・評価項目(2)	1-2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および院生）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	構成員に対する周知方法と有効性
	社会への公表方法
点検・評価項目(3)	1-3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

Ⅱ 点検・評価 対象期間は 2016 年 4 月～2017 年 5 月までとする。（教員数、学生数などのデータの基準日は 2017 年 5 月 1 日）

【点検・評価項目ごとの現状説明】

1-1	文学研究科は 1964（昭和 39）年に設置されたが、そのときの設置認可申請書には「高度にして専門的な学術理論及び応用を研究・教授し、その深奥を究めて、文化の創造・発展と人類の福祉に寄与する事を目的とする」と掲げられており、その目的のもとに今日に至っている。 現在、本研究科は、日本文学専攻、中国学専攻、英文学専攻、書道学専攻、教育学専攻の 5 専攻からなる。大学院学則に定められた文学研究科および各専攻の教育研究上の目的は、以下のとおりである(A1-2 第 3 条の 2 第 1 項第 1 号、第 2 項第 1 号)。 ＜文学研究科＞ 文学研究科博士課程前期課程・修士課程は、人間の生き方やあり方を考究する総合的な人間学としての文学をはじめとする人文諸科学の真髄を理解し、かつ広範な知識を修得し、新しい価値観を創造し人類文化の発展に寄与することができる高度な研究能力及び職業能力を持った人材の養成を目的とする（A1-2 第 3 条の 2 第 1 項）。文学研究科博士課程後期課程は、博士課程前期課程での教育内容をさらに深め、人文諸科学（日本文学・中国学・書道学）の真髄を理解し、かつそれに関するより広範な知識を修得し、新しい価値観を創造して人類文化の発展に寄与することができる高度な研究能力及びより専門的な職業能力を持った人材の養成を目的とする。 ＜日本文学専攻＞ 文学研究科日本文学専攻博士課程前期課程は、広い視野に立脚した研究能力及び高度に専門的な職業能力を身につけた、社会に貢献できる人材の育成を目的とする。文学研究科日本文学専攻博士課程後期課程は、自立した日本文学研究者及び高度な専門業務従事者を養成し、もって、社会に貢献できる人材の育成を目的とする。 ＜中国学専攻＞ 文学研究科中国学専攻博士課程前期課程は、文学部中国文学科の上位に位置する教育課程を擁し、中国の文化を専門的に勉強することによって、その専門知識と研究能力を修得することを目的とする。文学研究科中国学専攻博士課程後期課程は、前期課程の教育課程をさらに発展させ、より高度に中国の文化を専門的に研究することにより、この分野における専門的職業人としてふさわしい十分な研究能力を修得することを目的とする。 ＜英文学専攻＞ 文学研究科英文学専攻修士課程は、学部で培った知識をさらに専門的に深め、英文学、米文学、英語学、英米の文化を中心に各人の研究能力を学際的な視野に立ち高めることを目的とする。 ＜書道学専攻＞ 文学研究科書道学専攻博士課程前期課程は、漢字文化・仮名文化に立脚した書の本質をグローバルな視点から解明し考究する
-----	---

	「書道学」の理念に基づき、高度な職業人の養成、高い見識をもった研究者・教育者・書作家の育成、国際交流の推進など、学内外の要望に応えられるような人材を送り出すことを目的とする。文学研究科書道学専攻博士課程後期課程は、漢字文化・仮名文化に立脚した書の本質をグローバルな視点から解明し考究する「書道学」の理念に基づき、中国書学、日本書学、書跡文化財学のトップリーダーの養成を目的とする。 ＜教育学専攻＞ 文学研究科教育学専攻修士課程は、広い視野に立脚した研究能力及び高度に専門的な職業能力を身につけた、社会に貢献できる教育学研究者や教員の育成を目的とする。
1-1	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 理念・目的の設定について。【○】 具体的事例：理念・目的の国際化への対応について検討した結果、目標を仕切りなおすこととした。
1-2	文学研究科および各専攻の教育研究上の目的は、本学ホームページに公開されており、大学構成員と社会に向けた公表、周知が図られている（B1-6）。また、『大学院の手引き』（A1-17 p.16～p.19）、受験生向けの『大東文化大学大学院案内』にも掲載している（A1-7 p.5～p.17、B1-22 d2-表1）。
1-2	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 （１）構成員（教職員、学生）に対する周知方法と、その有効性について【○】 具体的事例：学生に対しては、修了時アンケートに盛り込む形で確認を始めた。教職員については、今後の検討事項である。 （２）社会への公表方法について【×】 具体的事例：
1-3	文学研究科の理念・目的の適切性については、各専攻の専攻協議会、文学研究科委員会で定期的に検証している。また、自己点検・評価活動でも検証を行っている（B1-16）。
1-3	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 理念・目的の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて【×】 具体的事例：

【効果が上がっている事項】

1-1	
1-2	修了時アンケートの実施により、周知度を確認可能になった。
1-3	

【改善すべき事項】

1-1	
1-2	
1-3	

Ⅲ 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～2018)	1-1 文学研究科および各専攻の理念・目的の国際化への対応について検討し、その結果を反映させる。 ※中期目標を再検討する（2017年度に削除した）	検討結果を学則等に反映させる。 現行の「理念・目的」の適切性について協議する。			B	A	
	1-2 文学研究科の院生が、本研究科および各専攻の理念・目的についてどの程度周知しているか、その調査方法について検討し、実施する。	文学研究科の院生が、本研究科および各専攻の理念・目的について周知している。			A	A	
16年度目標	1-1 文学研究科および各専攻の理念・目的のさらなる国際化への対応について検討し、その結果を反映させる。	左記の検討を開始している。			A		
	1-2 周知の認知度の実態について、	左記の検討を開始している。			S		

	いかなる認知度調査が良いか検討する。				
17 年度 目標	中期目標を再検討する	中期目標を設定する	→	S	

IV 評価専門委員会所見

1-1【現状】【目標】理念・目的の国際化への対応について検討した結果、目標を仕切りなおすこととしたということですが、内容が明確ではありません。第三者がみて分かるような記述が望まれます。中期目標の設定も削除され、17 年度目標、達成指標の記述もありません。なるべく早く、新たな中期目標、及び、単年度目標を設定することが必要だと思われます。

V 所見への対応

1-1【現状】【目標】「理念・目的の国際化への対応」という「目標」は、「学則に反映させる」べきことなのか、をはじめ、「国際化への対応」とは具体的に何をイメージするのかということについて、文学研究科内で協議検討する時間がとれない。抽象的なことは表現可能であるが、具体的には「留学生をふやす」「国際交流を活発にする」というようなことを指すのか、ともあれ、検討したい。予算措置もままならない現状で、何をを目指すか、である。空疎な文言を連ねても致し方ない。新たな中期目標、及び、単年度目標を設定に向けて、文学研究科委員会にて議論したい。

VI 次年度への課題

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

<根拠資料>

A1-2 大東文化大学大学院学則
A1-7 大東文化大学大学院案内 2017
A1-17 2017（平成 29）年度大学院の手引き
B1-1 大東文化大学将来基本計画 DAITO VISION 2023
B1-6 大学ホームページ（情報公開）<http://www.daito.ac.jp/information/open/index.html>
B1-16 大東文化大学ホームページ（自己点検・評価活動）
<http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html>
B1-22 大学データ集

<大学基礎データ>

d1-表1 全学の設置学部・学科・大学院研究科等（2017 年 4 月 1 日現在）

〔追加資料〕

大東文化大学大学院（博士課程前期課程／修士課程）修了時アンケート